

戦後 80 年 資料が語る横浜の戦中・戦後



講師：西村 健 氏

公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団
横浜開港資料館 主任調査研究員

戦時中の横浜中央電話局（現横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館）職員
川島善子氏蔵

本年は戦後 80 年の節目の年に当たります。昭和期の日本は対外戦争を継続して行いました。この時期の戦争は国家総力戦という形式で行われたため、国内のあらゆる物資や人的資源は戦争のために総動員されることになり、市民生活に大きな影響を与えます。また、多くの市民が兵士として戦場に赴いたほか、第二次世界大戦末期には大規模な都市への無差別空襲により、多数の市民が死傷する悲劇が生じました。本講義では、横浜市民が受けた戦争の影響や空襲被害の実相を資料や証言記録から紹介するほか、戦後占領期における子どもたちの戦争被害にも焦点を当てて紹介します。

- 日 時： 令和 7 (2025) 年 4 月 2 6 日（土）
1 5 時 3 0 分～1 6 時 3 0 分（予定）※多少前後することもあります
- 会 場： 横浜市歴史博物館 講堂
- 定 員： 8 0 名 先着順、定員になり次第締切。
- 参 加 費： 5 0 0 円 横浜郷土史協団体に所属している方は無料です。
- 申込方法： メールのみ
メール文面に、①氏名（ふりがな）、②住所、③電話番号を明記の上、
下記の申し込み先までお申込みください。

※横浜郷土史協団体に所属している方は所属団体を通じてお申し込みください。

申込先： 横浜郷土史協 記念講演会 係 メールアドレス t.shirai@yokohama-history.org

【締め切り】 令和 7 (2025) 年 4 月 2 3 日（水）必着